

私の原点

高卒で留学したフィリピンの“民主革命”が私の原点です。

1980年代のフィリピンは政治が乱れ、経済は低迷、貧富の格差、麻薬がはびこっていました。嫌がおうでも社会問題に目が向きます。1986年2月、人々の怒りが爆発し、独裁者マルコス大統領を国外へ追い出した「黄色い革命（ピープルズパワー）」がきました。私が大学を卒業する前年、現地の学友とデモに参加しました。

首都マニラの路上でタイヤが燃え、黒煙が立ち込めます。連日連夜、デモが続きました。夜中のラジオから「戦車隊が向かっています」とアナウンサーの興奮した声。私たちは路上で人間バリケードを築き、戦車を待ち受けます。最前列で聖職者らが木の十字架を握りしめ、遠方を凝視しています。すぐ後ろで私は「母ちゃんごめん、先に逝くかも」と心で叫んでいました。

ラジオは「戦車隊が方向を変えました」と報じ、私たちも急きよ移動し陣を組みます。緊迫した情勢は夜通し続きました。頭上では爆撃命令を受けたジェット機が通過しました。パイロットは人だかりを見て、発射ボタンを押せなかつたらしいです。



デモ行進するフィリピン留学時代のヤラ(前列左)。

「お前は名誉フィリピン人だ」と言われた。



4日目の夜明け。空が白くなりかけたころ、「マルコスが米国へ逃げました」とラジオが報じました。道路を埋めた人々は歓喜の雄叫び上げ、抱き合って喜びました。

16世紀のスペイン統治から列強に支配されてきたフィリピン。米国の言いなりと言われたマルコス大統領の追放はまさに民主国家フィリピンの夜明けでした。

私は社会のダイナミズムを肌で感じられる職に就きたいと思い、帰国後に沖縄タイムスで記者として働きました。人々と共にありたい、と思う原点はピープルズパワーです。

朝のあいさつ活動を継続しています。目の前を流れる車に一礼しながらあいさつ。軽く頭を下げて返してくれる人を見つけると心が躍ります。

地域懇談会では長年研究している米軍基地問題の話しをしたり、地域のことを教えてもらったりしています。ときには“やんばる”的会場で月光の下で人々と意見交換したりします。

政策や政治に対する思いを届けるため、FMコザで毎週金曜の夕刻にラジオ番組「気分はラーバン」、隔週火曜夜にインターネットのユーチューブで友人のタレントとトークライブ「それってどうなの沖縄の政治トークライブ」を配信しています。ライブには玉城デニー知事ら著名人も生出演してもらいました。

2022年の沖縄は知事選を頂点に参院選、統一地方選が相次ぎました。地域に入り、多くの有権者と触れ合う機会を得られました。「応援してるよ」と励ましの声もいただきました。

現在の活動



「頼みますよ」という県民の想いを胸に!

前衆議院議員 屋良朝博事務所

E-mail : info@yaratomo.com
〒904-2155 沖縄県沖縄市美原
4-22-12 ピュアバルクB-203号室
電話: 098-929-2416
FAX: 098-929-2005

プロフィール

1962年 沖縄県北谷町生まれ
1988年 フィリピン大学経済学部卒業
1988年～2012年 沖縄タイムス社（主に米軍基地問題を担当）
2007年 ハワイ東西センター客員研究員（米軍再編を研究）
2012年 フリージャーナリスト
2019年～2021年 衆議院議員
現在 立憲民主党沖縄県第3区総支部長



SNSでつながろう!

1 物価高を生き抜く=生活コストを下げる

消費税半減 物価3%高騰を吸収。生活を支えるために必須。

送料・輸送コスト 沖縄の送料は高すぎる。産業支援、生活支援の政策が不可欠だ。

鉄軌道 鉄道、次世代型路面電車などの導入を急ぐ。

送料が高すぎる。いまの物価高が沖縄の生活をより厳しく直撃する。

10kgの航空貨物運賃

北海道・千歳一羽田

¥6000～¥6500

那覇一羽田

¥9000～¥9500



公共事業に偏る沖縄振興は生活支援、産業育成に切り替えるべきだ。節約の味方であるモヤシ1パックが東京で20円～30円のとき、沖縄で80円～90円もする。輸送コストを補助する予算をドンと増やせば、産業が育つし、物価も下がる。暮らしを良くする政策を導入しよう。

2 女性政策

- 選択的夫婦別姓
- 養育費の回収システム導入
- 同一価値労働同一賃金



夫婦同一姓の強制や同一労働なのに賃金の男女格差は人権問題だ。保守政治はこの問題に向かわない。後ろ向き。そして母子家庭の貧困問題について社会は冷たい。欧米では標準装備の養育費回収システムを日本にも導入する必要がある。

離婚後に養育費を受けている母子家庭は2割くらい。子供の貧困を解消するため、欧米同様に養育費回収システムが必要だ。

3 子育て

子供の貧困対策

- 0～2歳児の保育無償化
- 給食費の無償化
- 保育士の労働改善

いまの教育は詰め込みが多くて窮屈ではないですか。退学などして学校から離れると落ちこぼれのレッテルを張られる。セカンドチャンスのない国は息苦しい。すべての若者が夢を実現できる社会をつくりましょう。

4 教育

- 国公立大学の授業料無償化
- 返済不要の給付型奨学金の大幅拡充
- 障害児を地域の学校で受け入れる、インクルージョン



5 辺野古の埋立不要

普天間飛行場の機能は3つで、うち2つは移転済（図参照）。残るはオスプレイやヘリの飛行訓練、地上部隊との連携訓練です。飛行訓練なら本土でもできます。地上部隊との連携訓練に必要なのは2～4機のみ。ほかは九州各地に分散すれば、普天間はすぐに閉鎖でき、名護市辺野古の埋立ては不要です。解決策はたくさんあります。しかし現状は安倍元首相が語るように、本土が嫌がるから、政治的な理由で沖縄が「唯一の選択肢」となっているにすぎません。

普天間飛行場は3機能を移転して、すぐに閉鎖

- 空中給油機の運用機能
→山口県岩国基地に、移転済み。
解決済
- 緊急時の航空機の受け入れ機能
→福岡県航空自衛隊築城基地
宮崎県航空自衛隊新田原基地に、移転準備中。
解決済
- オスプレイなどの運用機能
運用機能1) パイロットの飛行訓練
→どこでもできる
運用機能2) 地上戦闘部隊との連携訓練
→県内ヘリポートなどを利用（わずか2～4機で可能）
解決可

沖縄の海兵隊が出撃するときの輸送手段は、長崎県佐世保港にある米海軍艦艇。朝鮮有事、台湾有事では佐世保の船が沖縄に来て、物資や人員を載せて動く。積み込みなら九州でも可能だ。

立ち向かう。
そのために！

6 環境問題

有機フッ素化合物(PFAS)の汚染問題

2019年5月、衆院環境委員会で私が有機フッ素化合物(PFAS)の汚染問題を指摘しました。それがきっかけで環境省、厚労省が日本初の暫定基準値を設定しました。この汚染問題は米国でいま大変ホットな話題です。肝臓がんや低体重児の原因になることが知られています。国を挙げての対応が急務です。

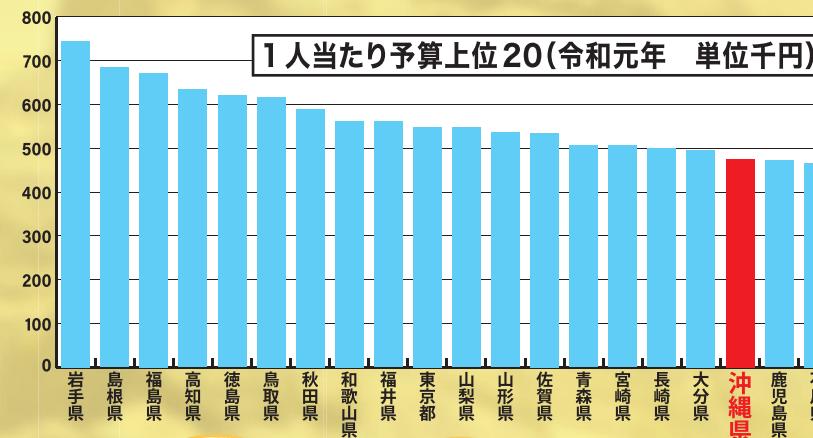
サンゴ礁 地球温暖化

沖縄のサンゴは危機的状態です。オーバーツーリズム、温暖化による白化現象、辺野古など埋立工事による大規模破壊。サンゴ移植について専門家は不可能だと指摘しています。沖縄の海洋資源は観光に不可欠な宝物です。例えばハワイのような保護政策が必要です。



詐欺のようなパイプ論

「政府とのパイプで予算を引っ張ってくる」というが、本当だろうか？沖縄の一人当たりの予算額は47万円で全国18番目。米軍基地が多いから予算も多い、というのはウソですね。辺野古埋立に反対したら予算が減る、というのもウソです。玉城デニー知事の2022年度予算は8000億円を超えて過去最高です。“パイプ”的正体は沖縄から利益を吸い取るものでは？沖縄の振興予算は公共工事に偏重し、儲けの半分は本土の大手企業へ。残りを地元の中小企業が分け合うため、利益が出にくい。いわゆる中抜きです。これでは県内労働者の所得は上がりません。予算をエサに沖縄をコントロールする政治は早く終わらせましょう。



政府とのパイプを強調する政治家がいます。しかし、日本の財政民主主義では必要に応じて予算は編成されます。パイプで一方的に水を多く流すことはできません。その証拠に沖縄の振興予算額はほぼ横ばいです。詐欺のようなパイプ論ではなく、所得を上げる経済政策が必要です。

PFAS汚染は米軍基地がひとつの原因ともいわれる。基地内の調査ができないのはおかしい。環境問題は国境さえ超えるのに、日本はフェンスに阻まれる。